

「ファイバースノウ」の収穫適期*は 5月29日頃からと予想!

※収穫適期水分(子実水分が約25%)になる時期

本年産の特徴と適期収穫

- 昨年12月から2月にかけて降雪量が多く、平年よりも生育が遅れています。
- 5月10日時点の穂の水分から、収穫適期は昨年より4日程度遅くなると予想されます。
- 上記の予想を参考に、適期収穫ができるように準備をしてください。
- 作業は、安全に十分注意して行い、事故を防ぎましょう。

参考：今後の気象予報

近畿地方1カ月予報 (令和4年5月14日～6月13日までの天候見通し)

大阪管区气象台 5月12日発表

冷涼な空気の影響を受ける時期があるため、向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。週別の気温は、1週目(5/14～20)は、低い確率50%。2週目(5/21～27)は、平年並の確率50%。3～4週目(5/28～6/10)は、平均並の確率30%、高い確率40%でほぼ平年並の見込みです。

○収穫作業のポイント

1. 大麦の収穫適期は子実水分25%以下！

麦に露がつきやすい早朝・夕方・降雨後は、穀粒の水分が著しく上昇するため、収穫作業は避けてください。子実水分が25%以下になってから収穫しましょう。

《子実水分が高い場合のリスク》

- コンバインの回転数が高すぎると、打撃により粒が損傷し、品質が低下します。また、収穫作業時の子実水分が高いと、より損傷粒が増加しやすくなります。
- 乾燥調製施設のホッパー等が詰まり、処理能力の低下や乾燥ムラの原因になります。
- 赤かび病等の病原菌がまん延したり、発熱や発酵、ムシやすくなります。

2. 赤かび粒は搬入しない！

赤かび粒が発生した場合は、絶対に施設に持ち込まないでください。

3. 収穫後は速やかに乾燥施設へ！

湿度の高い時期の収穫のため、ムシによる品質低下や赤かび病の感染拡大を防ぐ必要があります。収穫後は速やかに乾燥施設に搬入しましょう。

4. 刈り遅れに注意！

刈り遅れると、穂発芽や倒伏の増加、赤かび病の発生等で品質低下のリスクが高まります。

5. 必要に応じて刈り分けの判断を！

以下のような場合は、刈り分けが必要です。

- 遅れ穂が多い（選別時、未熟粒が混入する恐れがある）。
- 赤かび病の発生が多い。
- 倒伏の程度が大きい。
- 雑草の種子が混入する恐れがある（カラスノエンドウ、イタリアンライグラス等）。

○収穫に向けて今一度、排水対策の徹底を…！

登熟期の湿害は減収するだけでなく、品質を大きく低下させるので、排水溝を今一度点検し、速やかに排水されるよう、溝さらえなどを徹底しましょう。